

2024年度第2回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2024年10月28日（月）13時30分～16時00分

会 場：豊岡市役所本庁舎2階 大会議室

出席した委員：山室敦嗣（会長）、西垣由佳子（副会長）、青柳 順子、安藤有公子、
飯田勇太郎、木築基弘、黒田和真、田原 美穂、増原直樹、水嶋弘三、
村田美津子、野世英子

欠席した委員：川見絵里香、島崎卓也、山下正明

事 務 局：コウノトリ共生課 課長 宮垣 均

コウノトリ共生係 課長補佐 谷口久敏、主任 宇田川卓義、

主任技能員 船越 稔

脱炭素推進室 室長 井上浩二

1 開会（司会：宮垣課長）

- ・会議の公開、傍聴の許可、会議録の公表を確認

2 あいさつ

- ・山室会長より挨拶

3 協議（議長：山室会長）

【事務局】前回ご指摘いただいた意見をもとに修正した。

目標像① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【事務局】前回、委員より分取造林事業について意見をいただいた。

現在、分取造林については、記載が7ページの言葉の定義だけとなっている。今後、分取造林事業に関する記載をどうするか検討して欲しいとの意見について、関係課と協議した。

関係課は『分取造林事業の重要性は理解しているが、現時点で市として明文化した方向性を示すことは難しい』という回答。

委員の見解など、後ほどお聞かせいただきたい。

朝来バイオマス発電所の間伐材供給量のグラフに代わり、市内産の間伐材による発電利用のグラフに変更した。

9ページの図、森林環境譲与税使途の上下に記載されていた森林環境譲与税に関する記述をひとまとめにして簡潔にした。

9ページ「森林環境譲与税使途」の2022年度の委託料の増加は、10ペー

ジのトピックス『森林環境譲与税の活用』で取り上げた但東町坂津区の整備について、2022年度にどのような整備を行うかという業務調査を、ひょうご森林林業協同組合連合会に委託したもの。

トピックスでは、前回の協議で但東町坂津区を「手入れの遅れた人工林」と記述していたが、その後の担当課との協議で「手入れを必要する人工林」という記述に変更し、整備前後の写真を挿入した。

年度評価に関しては、「豊岡市産の間伐材が、「発電用材」として供給・利用されている。」ことをプラス項目とした。

【委員】 事務局から説明のあった分収造林事業は、第6部に記載してほしい。

ひょうご農林機構が進めている分収造林事業は巨額の負債により破綻しており、兵庫県は有識者委員会を設置して検討を進めているが、ほぼ市町に管理をゆだねるという状況になっている。

豊岡市で担当する部署は、現時点でも作業量が多く、分収造林の事務が来ると処理しきれないと思われる。

多くの土地所有者は、契約を破棄して土地を返されても困る。

分収造林地をどうするのかという議論が、今回のあり方検討委員会の報告書を踏まえて、噴出すると思われる。

そういう状況が市民に公開されるので、分収造林のことが環境報告書に全く書かれていないと、どうなっているのかという意見が市民から出ることを危惧している。

第6部に記述をすれば、市民の目にとまり、良い方向になると思う。

【事務局】 第6部の環境に関する取組みで、環境審議会の提言を記載する。

【委員】 『分収造林』の定義は7ページに書いてある。

分収林とは、所有者が持っている山の土地を貸すのではなく、地上権だけをひょうご農林機構に渡し、そこで木を育て伐期が来たときに売る。

高く売れば、所有者も儲かる。

それを分け合うということから『分収』という言い方をしている。

他の公団など山を管理している団体は、補助金で運営しているので、分収していても借金になるということはない。

ひょうご農林機構と県の分収育林地だけに借金があり、他の団体の分収造林すべてが借金している訳ではない。

【会長】 各県内の自治体で政策を立て管理主体を立ち上げていくということか。

- 【委員】市町に委託されても、市町が直接管理できるわけではない。
そこで事業体、例えば森林組合などの団体に管理は委託しなければならない。
そのコントロールをするのが市町になる。お金や人を含めて。
- 【委員】個人以外がひょうご農林機構と分収造林の契約をしているケースはあるか。
- 【委員】個人の契約が多いが、集落の契約もある。
- 【委員】分収造林の契約は、あくまで所有者とひょうご農林機構との契約のため、その数字を出すことはできないと思われるが、県ホームページの「あり方検討委員会」の内容であれば問題ないと思う。
- 【会長】次回の環境審議会で修正したものを提案する。
目標像①の評価は「この調子でがんばろう」で確定する。
続いて、目標像①の第6部について説明してください。
- 【事務局】新規に第1回環境審議会の意見をまとめたものと、過去の取組みで、来年度も継続として意見する方が良いと思う箇所を修正した。
この内容で問題ないか、ご意見ください。
- 【会長】補足をする。
昨年度の環境審議会の意見をつけているので、その資料を見ながら説明を聞いてください。
『新規』『継続』の表記は、昨年度から、このように表記するよう変更した。
第1回環境審議会の意見をいただきましたが、新規として追加した文章の表現が良いか確認してください。
前年度の項目が未達成なので、今年度も継続した方が良いということであれば意見をいただきたい。
今年度の第6部は新規含め3つですが、増えても良い。
また、新規に追加、文言修正などもあれば対応する。
- 【委員】2023年度の評価の中で、木質バイオマス利用機器の設置が減少している箇所だけ▲（マイナス評価）がついている。

このことについては、環境審議会として特に提言をしてない。
評価として▲（マイナス評価）なら、文言を記載した方が良い。

【事務局】昨年度の評価の項目を単に項目の数を減らしたのではない。去年の意見のうちで、解決できている箇所はカット、今年度に盛り込んだ部分で集約している箇所もある。

委員が指摘された木質バイオマス利用の件は記載していなかった。
改善を望むということを盛り込む方向で修正する。

【会長】前年度だと竹林の放置など、竹林の問題が挙がっている。
今回は、竹林に関する問題がないので、必要であれば発言をしてください。

【委員】竹林の話だが、今回の評価で解決されていないのであれば、課題として残しておく方が良い。

【委員】竹林が整備されている箇所もあるが、まだ整備されていない箇所が沢山あると聞く。
改善されている点があれば、結果も含めて残すのが良い。
全ての記述がなくなると、どうなっているのかと思う方もいる。
改善されていてプラスとして評価すれば、やる気も出てくる。
また、注目されている方もあるので、プラスの表現も追加して載せてほしい。

【委員】そもそも、今回我々が委員として出した意見は、昨年第6部を見て出している。
昨年度第6部に書かれたものが、今年そのまま引き継がれると思っていた。
要約するのは良いが、今回は、要約されすぎて分かりづらい。

【事務局】文章を要約しすぎて元の意味を損ない、良くないところを指摘するので、修正する。

【会長】時間の都合もあるので、目標像②以降第6部では新規の文言等を確認し、記載以外の新規があれば追加する。

目標像② 里山がさまざまに利用され、関わる人が増えています

【事務局】第2部の11ページ、鹿やイノシシの駆除に関する記述をよりわかりやすく修正した。

次に13ページ、森林ツーリズムでは雲海登山に関する記述を追加した。

トピックスも追加した。

2023年度評価では、委員から指摘のあったマダニやヤマビルが増加で安心して散策できない里山が増えているという項目を、マイナスとして記載した。

【委員】去年までクマの報告はなかったか。

クマの出没回数については、昨年度記載がなければ、今年度記載した方がよい。

有害鳥獣がシカ・イノシシその他の有害鳥獣にまとめられているが、出没回数が多いのであればどこかに記載するのがよい。

【事務局】昨年度はクマの記述はなかった。

【委員】2023年度でクマの出没回数が増えているのであれば、それを記載してほしい。

【委員】現在は、市のホームページで、目撃情報が公開されている。

過去の日撃情報は、市で集約しているか。

【事務局】クマの情報は、担当課にデータはあると思う。第2部への追記を検討する。

【委員】シカの農業被害は、金額的には限定的だが、交通事故の被害が急増している。

シカの事故は、車両保険が出ないことなど認知されていない。

【事務局】関係するデータがあるか探し、あれば記載を検討する。

【会長】評価は「この調子でがんばろう」に確定する。第6部を説明してください。

【事務局】目標像② 第6部

新規の意見について説明する。

「バッファゾーンの整備による獣害対策の効果についての周知を行って欲しい」と「動物の駆除だけでなく、共生という選択肢についても、知見を広めて欲しい」との意見を合わせて1つにした。

「里山に触れることができる機会を作り、興味や関心をより多くの方に持ってもらえるような活動を行う」と「教育や啓発」を盛り込んだ。

【委員】 去年は、人員不足により有害鳥獣の駆除後の処理が困難なことが課題となっているが、前回から改善されたのか？
個人的には、あまり変わっていないと思う。

【事務局】 有害鳥獣の駆除に伴う処理については、現状も適正な処理が指導されている。

【委員】 新規で、動物の駆除だけでなく共生という選択肢と書かれているが、共生という言葉が分かりづらい。
2022年度の下の段に駆除後の有効利用が記載されている。ここに入れたらよい。

【事務局】 共生は漠然としているので、具体的な表現に修正する。

目標像③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【事務局】 目標像③ 第2部

(2)「環境にやさしい農業の記載部分につきまして」、慣行栽培によく使用される被覆肥料について、取り扱いや表現をどうするか、担当課と協議した。

その結果、「被覆肥料のプラスチック殻の流出が水系汚染の問題となっている」項目と「環境創造型農業では被覆肥料を使用しないため、環境負荷が軽減される」項目を1つにして、「環境負荷の軽減に繋がる環境創造型農業に導く」表現とした。

トピックスは、学校給食での無農薬米の提供に関することに変更した。

【委員】 評価で、全部○だが「この調子でがんばろう」になっている。
これで良いか。

【事務局】評価方法に倣い、○が2つなので「この調子でがんばろう」の評価にした。

▲（マイナス評価）だった「環境創造型農業の作付面積が伸び悩んでいる」を削除した理由は、農業の人口は減っているが、農地の集約などで現状維持を保っているのは評価できると考えた。

環境創造型農業の作付面積が伸び悩んでいるとしても、今後爆発的に農業就業人口が増えることはないと思われるので、この時点でマイナスは適切でないと考えた。

「伸び悩んでいる」という表現は、その対応として「何かしたら作付面積が伸びる」→「だからもっと努力する」ということだが、農業者人口が減っていることを考えると、集約して面積を落とさずに現状維持している努力も認めるべきと考え、この項目を削除した。

【会長】第6部の説明をしてください。

【事務局】目標像③の第6部

学校給食での地場産野菜の利用率の事業目標が5年連続で達成されていることから、「目標値の引き上げを検討する」という意見と、「地産地消の意識啓発と消費者へ利用促進を行っていく」という意見を新規として掲載した。

目標像④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【事務局】目標像④ 第2部

19ページに、円山川漁協と竹野川漁協の補助金に関する記述とグラフを追加した。

その下の「川の体験活動実施率」はパーセント表示に変更した。

なお、100%ではないのは、川に特化した集計しているため湿地や田んぼで活動を行った場合、カウントされないため。

2023年度の評価では、魚礁の設置再開をプラスとして追記した。

【委員】評価で、「(数値の減少は児童数の減少によるもの)」は、パーセント表示なので削除したほうが良い。

【事務局】削除する。

【委員】「環境体験学習の自然体験が取り入れられている」ことはわかるが、【具体イメージ】の「子供たちが日常的に魚をとったり水辺で遊ぶ姿をみかけます」は、将来像で、現在日常的に遊んでいるところはないか。
もしあれば、地域のコミュニティがしっかりし、地元の方々の繋がりが強い良いモデルだと思う。
そのような事例があれば、学校の環境学習だけでなく、私たちが本当に求めるのはそこだと思う。
普段の生活の中で、そのようなモデルケースがあれば記載してほしい。

【事務局】委員の中でそういう情報をお持ちではないか。

【委員】出石町谷山川のミズアオイの場所は親水公園になっている。
毎年9月にミズアオイを観察する会が活動している。
観察会だけでなく日常的に入っている。

【事務局】ミズアオイの会に取材し、日常的に子供たちが川に入っているかなど取材し、盛り込めるようであれば記載する。

【委員】商工会青年部も一緒になって行っている。

【委員】谷山川は水位が低いので小学生の子供たちも入りやすい。
子どもたちだけで川に入り、遊んでいた。

【委員】但東町のシルク温泉の前で「子育て応援団」が、8月に魚とりのイベントをしている。
年に1回のイベントなので記載はむずかしいかもしれない。

【事務局】確認する。

【委員】「清掃活動」は「クリーンアップ」という言い方に変ってきている。例えば、「海岸清掃」は「ビーチクリーン」。
クリーン作戦は増えていると思う。
先週、切浜で「ビーチクリーン」をした。楽しみながら「ビーチクリーン」をするやり方が増えている。
例えば、竹野であれば、毎回「海町マーケット」のときに、「ビーチクリーン」をしている。

い。

【事務局】目標像⑤の第6部

「野外のコウノトリが増えてきた現在、特別視することなくどのように共生していくか、保護に続く次の行動について市民に周知をしてください」という意見を新規とした。

【委員】上の新規と、下の項目が大きく違うので一つにまとめた方が良い。

【会長】新規の項目がなくなるので、別の項目を事務局から提案する。

目標像⑥ **さまざまな世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます**

【事務局】目標像⑥の第2部

25ページ、地域コミュニティの行事事例では、コミュニティの「つくるよるこび会」と「西気コミュニティセンターの神鍋大根プロジェクトを取り上げた。

【会長】評価は「この調子でがんばろう」に確定する。第6部を説明してください。

【事務局】目標像⑥ 第6部

「地域の繋がりや伝統文化の学習は重要であり、成果も得られているため取り組みは評価できます。さらに、その取り組みを次の世代に繋いでください。」という意見をいただいた。

また、「褒めながら繋げる」という意見をいただいたので、この2つを追加している。

また、「住民がうまく伝統文化を継承している事例を捉えながら、中止するだけでなく、どのようにすれば継続できるか考えながら伝統文化を守ってください」という意見をいただいたので、これも掲載した。

目標像⑦ **子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています**

【事務局】目標像⑦の第2部

最初のグラフ「生きものとふれあう体験学習実施率（小学校）は、表示を参加校数からパーセントに変更した。理由は、目標像④の川の体験活動実

施率と同じ。

同ページのコウノトリ KIDS クラブの活動を 2023 年度の内容に変更した。

トピックスに写真を入れた。

【会 長】評価は「この調子でがんばろう」に確定する。第 6 部を説明してください。

【事務局】目標像⑦の第 6 部

「出張！田んぼの学校」などの生きもの調査は、地域の自然を知る絶好の機会です。さまざまな団体でさらに定着することを期待します」を新規として掲載した。

目標像⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【事務局】目標像⑧ 第 2 部

変更点ではないが、30 ページ、「クリーン但馬 10 万人大作戦」で、参加人数と、ごみの回収量が増えている理由を担当課に確認したので説明する。人口が減っている中での参加者の増加は、以前は、1 軒から 1 人、特に女性が参加するパターンが多かった。それが、ジェンダー意識の向上により、男性の参加者も増えてきた。何より家から 1 人を区の行事に出すという考え方から、環境意識の向上により、夫婦で、または親子での参加が増加した結果の表れとのこと。

これは、皆さんの活動と啓発のたまもの。

修正箇所は、32 ページに生ごみ処理機に関する補助金のグラフと記述を追加した。

トピックスも追加し、2023 年度評価では、プラごみの削減に関する具体的な技術が農業用プラスチックしかなかったため、代わりに環境美化意識の高まりと、ごみの減量化意識の高まりをプラス項目として追加した。

なお、トピックスだが、事務局で作成した環境パトロールとクリーン作成の記述は、毎年行っているクリーン作戦を掲載するのは違和感があるのでトピックスの提案をお願いしたい。

【委 員】分別について。30 ページの一番下で「プラスチック製品は硬さに関わらず全て燃やす」だが、プラスチック製品を分別して処理していく地域が少しずつ増えている。豊岡市では更なる分別の検討、予定、要望はないか。

【事務局】現時点では、豊岡市のごみ分別の種類が増えるという話はない。

【会長】評価は「よくがんばりました」に確定する。

【委員】トピックスだが、「クリーン但馬 10 万人大作戦」の参加者の増加は、一軒から複数人の参加があり、参加者が増えているのは新しい動きだと思う。個人を特定できないような写真を使うなどすれば、トピックスに掲載する価値がある。

【事務局】掲載できる活動の写真があるか、担当課に問い合わせる。

【事務局】目標像⑧ 第 6 部

「さらにゼロ・ウェイスト（ごみを出さないようにする取り組み）へ向けて、どのような対策（分別の変更を含む）が可能なのか検討してください」という意見を新規とした。

【委員】プラスチック製品の分別強化を掲載してほしい。

【委員】トピックスの候補です。

去年から演劇祭のナイトマーケットでは、ごみを 6 分別している。プラスチックは綺麗なもの、汚れたもの、洗うために使う水も準備していた。手間がかかるが努力されている。

【事務局】検討する。

目標像⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【事務局】目標像⑨ 第 2 部

35 ページのトピックスを「豊岡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を改定しました」に変更した。

【委員】省エネの対策として、交通や太陽光発電などもあるが、断熱も省エネ効果が大きい。断熱は窓が有効な手段となるので、記載してほしい。

【事務局】窓の断熱による省エネは有効だと思うが、掲載には歴年のデータが必要な

ので掲載は難しい。

【会 長】評価は「この調子でがんばろう」に確定する。第6部を説明してください。

【事務局】目標像⑨の第6部

「省エネ行動を各自行いつつ、様々な機会を利用して、省エネ行動に対する知見を広めてください」の意見を新規とした。

【委 員】実行計画がトピックスに記載されているので、新規にも実行計画の普及啓発を記載して積極的に進めるように記載してほしい。

【事務局】トピックスで取り上げた「実行計画の推進を図る」の追加について検討する。

【委 員】建築確認申請で断熱等級などのデータが市にあれば、断熱等級の状況がわかるので担当課に確認してほしい。

【事務局】建築確認申請を担当している担当課に確認する。

目標像⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【事務局】目標像⑩ 第2部

39 ページについて。

コウノトリ文化館の来館者数に変わり、環境学習や視察の受け入れ状況を示すグラフと文章を記載した。この視察者数は、事前に予約をした方で、予約なしで来館された方は人数に入っていない。

また、個人が評価するコウノトリ文化館の価値を示す例として、1人当たりの環境協力金の推移を追加した。

コウノトリ目撃情報も、47都道府県に広がった記述に修正した。

トピックスはKDDIの生息地保全活動を取り上げたが、この活動は、今回が7回目。他に話題があればお教えてほしい。

評価はコウノトリ文化館の視察を絡めた表現に変更した。

【委 員】トピックスに日高神鍋観光協会サステナブルツーリズム委員会は今までに取り上げていない。地域経済に即しているのでこちらの方があっている。

立ち上げは、2022年の10月だが、そのあと実績を積み上げている。

【委員】文化館の視察者は、どのような方か。

【事務局】コロナ以前は観光を目的とした団体の来館者数が多かったが、以降は個人的な知見を広めるための勉強や視察へと観光形態が変化している。

そのため、視察者数を掲載した。

視察者数を文化館に尋ねたところ、事前に予約を受けた人数は把握しているなので、その人数をグラフにした。

行政機関だけでなく、個人で環境学習に興味を持ち、予約してこられる方も含めて視察としている。

【委員】表現は「予約来館者数」ではどうか。

環境意識が高く、コウノトリに興味を持って来られる方が増えていることを示せればよい。

【事務局】「予約来館者数」は、よりコウノトリに興味を持ってきた人のように感じる。

【委員】その他、ツアーに組み込まれている方もいる。

また、本文では、「個人旅行や外国人客は増加しています。」とあるので、観光で来館する方も多い。

【事務局】環境学習のグラフで文化館の価値は示されるので、視察者数のグラフは、来館者数のグラフに差し替える。

【事務局】併せて、40ページの評価の文言で「集団観光から個人での視察」の視察をとることも検討する。

【会長】評価は「この調子でがんばろう」に確定する。第6部を説明してください。

【事務局】目標像⑩の第6部

「市内を訪れた観光客へ、また、市外でのイベント等で、環境経済戦略に関してより積極的なPRを工夫してください。」という意見と、「農作物、加工食品だけでなく、幅広い分野で、環境経済認定事業が継続して

いける努力・工夫をさらに期待します。」という意見を新規とした。

【事務局】先ほどのサステナブルツーリズムは、環境をよくすることで観光業への経済活性化を図ることがあり、それを目指して動きを進み始めている。このことも記載する方が良い。

【委員】サステナブルツーリズムの記載を入れてほしい。

【事務局】サステナブルツーリズムの記載も追加する。

【委員】環境経済認定事業のPRが少し弱い。22年に記載されている表現が良い。商工会の中でもあまり認知されていない。成功例の発表の場を設けるか、市の広報などで紹介できないか。発表の場があれば、取り組んでいる事業者には、励みになる。

【事務局】「農産物・加工食品だけでなく、幅広い分野で、環境経済認定事業が継続していける努力・工夫をさらに期待します」という内容で提案していただいと理解している。発表の場を設けてさらに周知を図る文言も追記する。

【会長】全体を通して意見はあるか。

【委員】シカやクマの問題は、自然環境の問題だけでなく、生活環境の問題にもなるので、どこかに入れてほしい。城崎では、クマが目撃されてロープウェイが休業になり、観光客からの問い合わせも多い。クマの出没で旅行を取りやめにする人もいる。自然環境だけでなく色々な方向から考える必要がある。もし事故があったらどうなるのかという不安を抱きながら生活や仕事をしているので、この環境審議会の報告書の中でも、経済にも影響をおよぼす可能性があることに触れたほうが良い。

【委員】豊岡市は脱炭素推進室を設けている。先日の兵庫県のフォーラムだと気候変動と健康がテーマで、健康被害も出ている。また、JRは、シカが原因で電車が止まることが増えている。

太陽光発電システムの保険が5倍になっている。
環境は生きものや自然だけでなく、環境に関する領域は幅広くなっている。

【事務局】 どのような文言で記載するか、会長、副会長と相談する。

【会長】 獣害が環境にも影響していると思うので、目標像⑩に入れてはどうか。
目標像⑩第6部の新規に入れる方向で検討する。
獣害の話は、地元の話だけでなく、市の経済活動にも影響しているという
ことを入れると全市をあげて取り組みやすい。

【委員】 獣害は、自然環境、生活環境、経済にわたって関わるので、まとめで触
れて入れ込むこともできる。

【会長】 目標像の記載があると「まとめ」に入れやすいので検討する

4 その他

- ・環境審議会の視察について
- ・委員報酬の振込について

5 閉会

- ・西垣副会長あいさつ